



©大田区

発行/大田区教育委員会 〒144-8623 東京都大田区蒲田5丁目37番1号ニッセイアロマスクエア5階 TEL 5744-1111(代表) HP <https://www.city.ota.tokyo.jp/kyouiku>

# おおたの教育

## 今号の主な内容

- 1面 令和4年度教育予算
- 2面 教育長所信表明、家庭教育コラム
- 3面 コミュニティ・スクールが始まります、小学生駅伝大会
- 4面 教育実践功労者表彰、就学援助

## 令和4年度教育予算

# 子どもたちの新しい学びの構築と学びの保障

～主体的・対話的で深い学び おおたモデルの実現に向けて～

3月25日、大田区議会は令和4年度予算を議決しました。区一般会計予算の総額は3,009億円、そのうち教育関係予算は350億円(総額の11.6%)となっています。

教育委員会では、「子どもたちの新しい学びの構築と学びの保障～主体的・対話的で深い学び おおたモデルの実現に向けて～」を令和4年度のテーマに掲げ、各種施策に取り組みます。

「新たな学びの構築」として、「大田区教育ICT化推進計画」を基に、学校におけるICT教育環境の整備やICT活用能力向上等の課題への取組、「学校教育環境の整備等」として、学校施設の機能更新等に対応するための改築や増築などの取組、「個に応じた学びの支援」として、「大田区不登校対策アクションプラン」を基に見童・生徒の不登校の未然防止・早期対応等のための取組を充実させていきます。



▲梅田小学校

## 新たな学びの構築

### ★ICT教育環境整備

15億871万円

タブレット端末等の機器の入替えを行うとともに、学習用コンテンツを充実させ、ICT教育における主体的・対話的で深い学びの実現に取り組みます。



▲梅田小学校

### ★ICT教育推進専門員の増員

1,141万円

ICT教育の指導訪問及び先進的事例の収集を行い、区立小・中学校に情報共有を行うことで、ICT活用能力の向上を図ります。

### ★ICT教育推進のための授業モデル構築

825万円

ICTを活用した授業モデルを構築し、ICT教育を行う教員の指導力を向上させ、タブレット端末等を活用した効果的な授業を行います。

### ★「(仮称)未来ものづくり科」の新設に向けたSTEAM教育の推進

362万円

地域の企業・団体・学校と連携し、ICTを活用したものづくりやイノベーションを題材に、魅力的な単元の研究・実践を行う研究実践校を設置します。STEAM教育を推進しながら、「(仮称)未来ものづくり科」の教科化を目指します。



## 学校教育環境の整備等

### ★学校施設の改築及び増築

53億6,892万円

良好な教育環境の確保とともに校舎の機能更新に対応するため、これまでに計画した14校の整備を進めるとともに、新たに2校を選定し、改築に向けて取り組みます。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| ①大森第七中学校  | ②入新井第一小学校 |
| ③東調布第三小学校 | ④赤松小学校    |
| ⑤田園調布小学校  | ⑥東調布中学校   |
| ⑦矢口西小学校   | ⑧安方中学校    |
| ⑨馬込第三小学校  | ⑩入新井第二小学校 |
| ⑪北糀谷小学校   | ⑫馬込東中学校   |
| ⑬萩中小学校    | ⑭中萩中小学校   |
| ⑮石川台中学校   | ⑯出雲中学校    |

児童数の増加及び35人学級化に伴う学級増への対応に必要な校舎の増築を進めます。

- 【増築】①蒲田小学校 ②高畑小学校  
③馬込小学校



### ★放課後の安全で安心な居場所づくりの拡充

2,689万円

放課後子ども教室を、新1年生も4月から利用可能とすることで、すべての児童の安全・安心な放課後の居場所を拡充します。タブレット端末の活用のためにWi-Fiを整備し、学習環境の充実を図ります。

### ★コミュニティ・スクール事業の推進

153万円

モデル事業を実施している小・中学校5校にコミュニティ・スクールを導入し、地域の教育力を生かした「地域とともにある学校づくり」を目指します。

## 個に応じた学びの支援

### ★小学校特別支援学級(知的障害・固定学級)の新設

1億1,966万円

令和5年4月に小学校2校で予定している知的障害・固定学級の開設に向けた準備を進め、一人ひとりの障がい特性に応じた特別支援教育の充実を図ります。

### ★登校支援員・養護教諭補助事業の拡充

4,768万円

児童・生徒の学校内での居場所づくりに対応するため、登校支援員・養護教諭補助の配置時間を拡充します。

### ★学級集団調査の拡充・WEBQUへの移行

2,558万円

中学校及び小学校第3・4学年で実施している学級集団調査を小学校第5・6学年へ拡充します。

タブレット端末を活用する調査方法(WEBQU)に移行し、即時に学級の状況を把握・分析することで、いじめや不登校などへの早期対応へつなげ、生活指導上の支援を充実します。



### ★不登校特例校基本構想及び基本計画策定

660万円

不登校特例校の教育理念や教育活動を具現化した基本構想及び基本計画の策定に着手します。

事業名の前に★印が表記されているものは、「新おおた重点プログラム」に掲げる計画事業です。

【問合せ先】教育総務課庶務係

TEL: 5744-1422 FAX: 5744-1535

# 区議会第1回定例会

# 教育長所信表明

令和4年区議会第1回定例会（2月15日）、  
 小黒教育長が登壇し、所信表明いたしました。



議場で発言する小黒教育長

コロナ禍の教育において、大きく変化したことの一つは、1人1台のタブレットを活用した子どもたちの学習です。学習課題を解決するために、友達とタブレットで撮り合った動画を見比べたり、タブレットで学習のまとめを発表するなど、多様な学習が行われています。生き生きと楽しそうにタブレットを使って学習の様子からは、これからの社会を生きる子どもたち自身が、ICTを活用した学習を望んでいるようにも感じられます。

一方、タブレットを活用して、主体的・対話的で深い学びをするためには、教師の授業力が必要です。教材について深く理解し、目の前にいる子どもたちの学習状況を把握し、どのようにすればねらいとする力が身に付くか、方法を考え、実践することのできる教師が、タブレットのもつ様々な可能性、有効性を発揮すること

ができます。

## 豊かに生きる子どもを育てる授業の実践

ここで、私が本区の教育委員会に来て、指導主事時代に1度だけ、中学校の国語の授業を行ったことがありますので、その時に学んだこととお話します。授業は、中学2年生、「夏の葬列」という文学作品の一番初めの時間に行いました。

1時間の授業の流れは、初めに私が全文を範読する。次に、生徒が自分の心に残った文章を書き抜く。最後に、書き抜いた文章を発表し、物語全体のストーリーを捉えるという構成にしました。

この授業を行って、強く心に残ったことが二つありました。一つ目は、文学作品の力です。生徒たちは、15分間ほどの私の範読をじっと聞いていました。読み始める前には、机に伏せて寝ている男子生徒がいましたが、物語を読んでいく途中から、顔をあげて、聞き入っていました。

私の範読がうまかったわけではありません。物語の展開のおもしろさと情景描写、心理描写の巧みさが、生徒たちの心を引き付けたのだと思います。

二つ目は、「伝えようと思えば、伝わる」ということです。事前に国語の授業を見に行った時には、ほとんど話を聞いていない状況だった生徒が、自分の心に残った言葉をおしゃべりもせずに、書き抜いていました。また、発表の時には、ほとんどの生徒が自分の書き抜いた言葉を発表してくれました。

確かに授業というものは、先生と子どもたちで作り上げていくものです。一回の授業で生徒の力が大きく伸びるものではありません。しか

し、教師が本気になって、工夫し伝えようと思えば伝わるのだと実感できました。また、生徒たちは、そのような創意のある授業を望んでいるように感じられました。

国語教育の根底には、言葉への愛と子どもへの愛があるように思います。「言葉のおもしろさ、大切さ、よさやすばらしさに気付き、言葉の力を身に付けることで豊かに生きる力を身に付けてほしい。」という願いが、国語教育の原動力になっているように思います。

また、これは、国語ばかりではありません。あらゆる教科・領域には、その教科・領域ならではの「ものの見方、考え方」があります。また、おもしろさや醍醐味があります。その教科・領域ならではの「ものの見方、考え方」を身に付け、おもしろさや醍醐味を味わい、その力を生かして豊かに生きる子どもを育てていく授業実践が求められています。

そして、そのために、タブレットをどのように活用すればよいのか、各学校で、試行錯誤しながら実践が始まっています。教育委員会では、ICT教育推進専門員を増やすほか、ICTを活用した授業モデルの構築に取り組むなど、各学校、教室での実践をしっかりと支援し、教員の工夫や改善をしっかりと支えてまいります。

人が人として豊かに育ち、生きていくためには、人との出会い、つながり、支えが欠かせません。また、言葉は、コミュニケーションを図るとともに、人間の感性や情緒をはぐくむうえで、大切な役割を果たします。

教育委員会は、コミュニケーション手段をはじめ、社会のあり様が劇的に変化する社会を見据え、言葉を大切にしながら、未来社会を創造的に生きる子どもたちの育成に全力で取り組んでまいります。

## 家庭教育 コラム

# 思春期の先を信じる向き合いを

ファミリアス 代表 村田あゆみ

### ◆オセロも裏を返せば白が出る

2歳児のイヤイヤ期に始まり、小1の壁、9歳の危機、そして思春期。子育てって苦勞の連続なのかとメディアの情報を見るたびに思います。「いつだって愛おしいわが子には変わりはないはずなのに、子育て暗黒期だぁ」なんて思う日もありますよね。

親にとっては生意気で憤慨しそうになる態度の裏側には、子どもの葛藤や成長しようとする姿があるのです。



### ◆戸惑いの時期に適度な距離と寄り添いを

思春期は、心と身体が大きく変化する、大人への橋渡しの時期です。子どもの心は、それまで一体だった親との絆を断ち切って自立へと踏み出すのです。自分の部屋を欲しがると、一人で出かける、隠しごとをする。そんな形で、もう自分は親から離れると表明しているのです。一方で、身体の変化は大人が思うより大きな戸惑いを子どもたちに与えています。軽やかだった自分の身体は、いつの間にか重たくてすぐに疲れを感じます。伝えたいことはあるのに、自分の思いを表現する言葉が見つけれず、話すのをやめてしまうこともよくあります。

「だるい」「めんどくさい」「もういい」は思春期の三大ワードです。その裏には、心身の変化に追いつこうとする子どもたちのがんばりが隠れています。変化への戸惑いや照れくささが反発という形で現れます。そんな記憶を、あなたも持っていませんか？

思春期を表すもう一つのキーワードは「揺れと接触」です。自立は不安も伴います。「さっきまでのご機嫌モードはどこへ行ったの？」とびっくりするくらい態度が急変することもよくあります。不安定な心はそのまま激しい揺れとなって外に表現されるのです。

一方で、幼児返りかなと思うくらいにスキンシップを求めたり、意味もなく親の周りをうろうろしたりする姿もよく見られます。そんな時はあれこれ聞きたくない気持ちはぐっとがまん（笑）！同じ空間にすることが、思春期の子どもにとってのスキンシップです。安心すればふらっとまた自分の居場所に戻っていくものです。

### ◆子どもは必ず成長します

こんなことを頭の片すみに置いておくと、あれっという場面に出くわしても「それこそ思春期！」と顔がにやけてしまうはず。もちろん、時には激しくぶつかることもあるでしょうし、だめなことには頑として譲れない姿勢をもつことも大切です。

しかし、どんな時でも信じていてほしいのは、子どもたちにとって今この時の葛藤が未来の成長の礎だということです。

高校教員時代、たくさん子どもたちと出会いました。中には思春期の激しい揺れのただなかにいる生徒もいました。ですが、成人し、働いたり親になったりしている姿にかつての激しさはありません。どの子どもも、それぞれの揺れを経て大人になっています。その後ろには、時には激しくぶつかり、時にはそっと手を差し伸べて支え、子の成長を信じ続けた保護者の姿が必ずあるのです。

思春期の先には、心を通して結ばれた新しい親子関係が築かれていきます。子どもでも大人でもない揺れ動くこの期間は大変なこともあります。子離れ親離れの第一段階です。

どうぞこの貴重な思春期の限られた時間を、豊かで幸せな親子の新しい絆を作る土台の時期として過ごしてください。



家庭教育コラムのバックナンバーや家庭教育学習会の情報は、大田区ホームページからご覧いただけます。



問合せ先 教育総務課教育地域力推進担当  
 TEL：5744-1447 FAX：5744-1535

# ● コミュニティ・スクールが始まります ●



▲協議会『熟議』の様子(馬込第三小)

## 【馬込第三小学校】

学校課題等の『熟議』を重ね、校舎改築と並行し「新しい馬三を創る」を合言葉とした地域協働活動等のマネジメント

## 【久原小学校】

「豊かなスポーツライフを楽しめる子」等学校課題等の地域への情報提供及び意見交換

今後の展開については、この5校の導入効果等を検証しながら、設置校の拡充を検討していく予定です。教育委員会は、今後も学校・家庭・地域の連携・協働により、未来を担う子どもの成長を育んでいきます。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、子どもたちを取り巻く社会状況や学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、「地域とともにある学校」を目指すための仕組みです。地域の方々が学校運営に参画して学校とビジョンを共有し、学校と地域が連携・協働して特色のある学校づくりができるようになります。地域の方々の新たな発想による課題解決や世代間交流の促進、将来の地域の担い手の育成などが期待されます。

大田区では、令和4年4月から、令和3年度モデル事業実施校の区立小・中学校5校(馬込第三小、久原小、道塚小、大森第二中、大森第三中)において、コミュニティ・スクールを正式に導入します。すでに各校では、それぞれの特色を生かし、課題に取り組んでいます。

## 【道塚小学校】

教育課程に必要な人材を探し授業につなげる(工場見学先の発掘等)

## 【大森第二中学校】

検定試験(英検・漢検)の運営体制構築  
学校行事(授業・部活動)等への地域参画・協働

## 【大森第三中学校】

コミュニティ部活の検討や学校運営協議会委員の担当者制(ICT推進役、登校支援等)



▲栽培クラブの様子(道塚小)

問合先 教育総務課教育地域力推進担当 TEL: 5744-1447 FAX: 5744-1535

## 第10回小学生駅伝大会



令和3年12月18日、大田スタジアム特設周回コースにおいて、第10回小学生駅伝大会が開催されました。コロナ禍の影響で昨年度は中止としたため、2年ぶりの開催となりました。

区立小学校59校から、5・6年生の代表児童が参加し、各校のたすきをつなぎ、全力で走る姿は、多くの人に感動を与えました。

開催に当たっては、応援の人数や応援エリアを制限したり、コースの幅を従来より広く取ったりする等の感染症対策を徹底して行いました。また、出雲中学校陸上競技部、南六郷中学校陸上競技部、東京消防庁大森消防署、東邦大学医療センター大森病院等、多くの関係者のご協力の下、安心・安全を最優先に大会を運営することができました。

## 子どもたちの体力向上

令和3年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(東京都統一体力テスト)」を区立小・中学校で実施しました。種目ごとに東京都と比較すると、小・中学校ともに半数以上の項目で都の平均値を上回っており、各学校での体力向上の取組の成果が表れました。しかし、前年度の区の記録と比較すると、ほとんどの種目で平均値が下回る結果となりました。背景としては、コロナ禍での生活習慣の変化に伴い、運動やスポーツをする機会や時間等が減少したことなどが影響しているのではないかと考えられます。

この結果を受け、区立小・中学校では、コロナ禍においても感染症対策を徹底し、工夫して体力向上の取組を実施しています。



### ◆志茂田小学校の取組

小学生駅伝大会に向けて、約2か月間、毎週3~4回、朝や放課後に練習会を実施しました。記録を伸ばしたい選手の他、体力向上を目標とする希望児童約30名が練習に参加しました。児童は、記録をとり合い、たすきの受け渡しを行うなど、40分間程度の練習に熱心に取り組みました。

また、小中一貫教育の取組として、志茂田中学校、西六郷小学校、仲六郷小学校と共に合同練習を行いました。合同練習会は、保護者の方々にも見学に来ていただきました。4校で体力向上に向けて、1年間を通して、連携して取り組むことができました。



問合先 指導課指導主事 TEL: 5744-1435 FAX: 5744-1665

## 感染症対策の特別授業を実施しました



令和3年12月13日、山王小学校の5年生児童を対象に、東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授で政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会メンバーの館田一博先生ら専門家による感染症対策の特別授業が行われました。

授業の冒頭で、館田先生から児童に覚えてほしいこととして「ウイルスの大きさ」「どうやって感染するか」「感染した人を決して仲間はずれにしない」という3つの大切なメッセージが伝えられました。続いて、地域連携感染制御学講座の先生方から、微生物や感染症についての基礎的な知識や感染症予防についての講義が行われました。参加した児童は、メモを取ったりうなずいたりしながら、講義を熱心に聞いていました。

授業後、児童から「先生方に教えていただいたことを忘れずに規則正しい生活をして免疫力を上げ、手洗い・うがい・マスクなどの感染症対策をしっかり行っていきたい」「専門家の先生の授業を聞いて、感染症についてもっと知りたくなったので、家でタブレットで調べようと思う」といった感想が多く聞かれました。

今回の特別授業の動画は、区立全小・中学校のホームページのトップページで見られます。

問合先 指導課指導主事  
TEL: 5744-1435 FAX: 5744-1665

—令和3年度大田区教育委員会—

# 教育実践功労者表彰

教育委員会では、区の教育の発展に貢献し、その功績が顕著で、優れた教育実践を行った教員を「教育実践功労者」としてその功績をたたえ、毎年表彰しています。令和3年度は、3名の方が受賞されました。今後も大田区の教育のためにご尽力いただき、子どもたちの健やかな成長を支えていただきたいと思います。

【問合せ先】 教育総務課庶務係 TEL：5744-1422 FAX：5744-1535



**桐井 尚江 主任養護教諭**  
(糀谷中学校)

子どもの声に耳を傾け、寄り添える保健室でありたいと努めてきましたが、日々迷うことばかりです。多くの方の支えがあってこそ今の自分がいます。今回の賞を励みにこれからも進んでいきたいと思います。

特別支援教育コーディネーターとして、サポートルームの新規開設や運営に寄与されました。不登校の初期対応や未然防止にも取り組み、組織的な対応の推進役を担われました。専門家を招聘しての校内研修に際しては、計画から実施まで中心となって進め、人権教育研究協力校としての教育目標の達成に大いに貢献されました。

**橋本 弘一 主幹教諭**  
(糀谷小学校)

楽しく分かりやすい授業を目指し、実践に励んでまいりました。この度、このような賞をいただき大変光栄です。子どもたち、保護者の皆様、先生方のおかげです。今後も、自己の知見を子どもたちや先生方に還元できるように努めていきたいと思います。

優れた授業力によって他の教員の模範となり、校内のOJTの推進役を担われました。ICT活用の技能を生かし、一人1台のタブレット端末の利活用では、授業及び校務運営において中心となり取り組まれました。教職員の働き方改革にも十分な力を発揮され、持続可能な学校組織の運営に大いに貢献されました。

**坂入 みゆき 主幹教諭**  
(東調布第一小学校)

この度は、このような賞をいただき光栄に存じます。今まで関わってきた子どもたちや保護者の皆様、地域の皆様のおかげと感謝しております。これからも子どもの気持ちに寄り添い、子どもたちの成長のために努力してまいります。

教務担当主幹教諭として、校務の組織的な運営に力を尽くされました。校内研究や授業研究を活性化させ、若手教員のOJTに取り組むとともに、授業改善推進プランを策定するなど、教員一人ひとりの授業力向上に寄与されました。大田区教育研究会算数部では副部長を長年務め、大田区の算数教育推進に大いに貢献されました。

## 給食費や学用品購入費の一部を支給します(就学援助)

**対象**

小・中学生の子どもを保護者で、大田区に在住の方のうち、下記のいずれかに該当する方

- ① 生活保護を受けている(要保護認定者)
- ② 同一生計を営む世帯全員の令和3年中の総所得金額等が認定基準所得金額に満たない(準要保護認定者)

※直近で家計が、急変した世帯については、問合せ先までご相談ください。

《認定基準所得金額の目安》

世帯人数	2人	3人	4人	5人
給与所得の目安	300万円	354万円	391万円	482万円
収入の目安(参考)	443万円	510万円	556万円	669万円

※認定基準所得金額は、家族の年齢構成等によって異なります。表の金額は、あくまで目安です。

**援助内容**

- ・認定された場合は、下表の援助が受けられます。ただし、認定区分・学年及び申請月によって費目や支給額は異なります。
- ・要保護認定者(生活保護受給者)については、網掛け部分は生活保護費から支給されるため就学援助での支給はありません。
- ・就学援助は、認定された方に就学援助費を支給するものであり、給食費や教材費等の学校納付金が免除されるものではありませんので、学校の案内どおりにお支払いください。

○給食費	○学用品費
○新入学用品費	○体育実技費(購入者のみ)
○通学費(特別支援学級(固定)通学者のみ)	
○校外授業費	○移動教室参加費(参加者のみ)
○修学旅行参加費(参加者のみ)	○クラブ活動費(小学校4~6年生のみ)
○卒業アルバム費(購入者のみ)	○医療費(対象疾病のみ)

※新入学用品費について

新入学用品費は、入学前に支給を行っています。令和5年4月に中学校へ入学する子どもがいて、入学前に受給を希望する場合は、小学校6年生の時点で就学援助の申請を行ってください。

**申請方法**

4月上旬に学校から配布する「令和4年度就学援助費受給申請書」を期日までに学校へ提出してください。なお、大田区以外の区市町村立及び国立・都立・私立小中学校に通っている場合は、下記までお問い合わせください。

【問合せ先】 学務課学事係 TEL：5744-1429 FAX：5744-1536

## 受賞おめでとうございます



**バーレーン2021アジアユース パラ競技大会**

100M背泳ぎ 1位 200M個人メドレー 1位 100M自由形 2位  
東調布中学校 3年 齋藤 正樹



**歯と口の健康に関する ポスターコンクール**



小学校低学年  
図画・ポスターの部3位  
六郷小学校2年  
高田 蒼己



特別支援学校・特別支援学級  
図画・ポスターの部3位  
大森第八中学校1年  
川野 真佳

※受賞当時の学年を記載しています。

### 教育委員会定例会の主な議題

- 令和3年第12回定例会(12月23日開催)
- 令和4年第1回定例会(1月20日開催)
  - ・第20回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について
  - ・大田区学校運営協議会規則
- 令和4年第2回定例会(2月14日開催)
  - ・令和4年度大田区立図書館の特別整理期間について

### 教育委員会定例会の開催予定日

- 日程 ①4月25日(月) ②5月23日(月) ③6月23日(木)
- 時間 ①午後3時から ②・③午後2時から
- 場所 蒲田5-37-1 ニッセイアロマスクエア5階 教育委員会室

※予定が変更になる場合があります。

傍聴を希望する方は、あらかじめ下記問合せ先へご確認ください。

※手話通訳・要約筆記が必要な方は開催日1週間前までに、その他特別な配慮が必要な方は事前にご連絡ください。

【問合せ先】 教育総務課庶務係 TEL：5744-1422 FAX：5744-1535